

ラテンアメリカとの連携強化

当教室では田中教授のラテンアメリカでのこれまでの活動をさらに教室の感染症研究連携に発展させるべくラテンアメリカとの活動を行っています。特にメキシコの保健省疫学局との AMR（同医務官の大学院生受け入れを通して）、メキシコ・ユカタン自治大学付属野口英世博士地域研究所（通称：野口研）、メキシコ・ケレタロ大学獣医学部、パナマ・ゴルガス記念研究所との zoonosis(ダニ媒介感染症やレプトスピラ症)の協議が進行中です。今後、より具体的な展開を進めたいと思っています。

パナマでのこれまでの活動

2024 年

国際協力活動として、2024 年 10 月にパナマ共和国を訪問し、国際協力機構（JICA）が実施する中米・カリブ地域感染症対策支援事業に招聘参画しました。パナマのゴルガス記念研究所（ICGES: Instituto Conmemorativo Gorgas de Estudios de la Salud）を中心とする感染症サーベイランス・診断能力強化支援のフォローアップを行い、併せて中米・カリブ諸国を対象とする第三国研修（感染症ゲノム解析研修）において「感染症サーベイランスとワンヘルスの実践」をテーマに講義を実施しました。現地研究者との協議では、マラリアやレプトスピラ症、ハンタウイルスなど人獣共通感染症（Zoonosis）への対応を中心に、ヒト・動物・環境の統合的視点による感染症制御の重要性を確認しております。また、パンアメリカ保健機関（PAHO）との会談を通じ、パナマ東部ダリエン地域における移民流入に伴う感染症リスクや地域住民への医療アクセス問題など、公衆衛生上の課題について意見交換を行っております。これらの成果を通じ、ゴルガス研究所を中米地域の感染症対策拠点として位置づけ、ワンヘルス・薬剤耐性（AMR）管理・人材育成を柱とする国際連携の方向性を確認しました。今後、当教室としては JICA 枠組みに限らず、ゴルガス記念研究所（ICGES）と学術的・教育的連携を通じて中米地域の感染症制御と人材育成に継続的に貢献していく計画です。

ゴルガス記念研究所と国内 3 か所のサテライトラボ







セミナー講演

JICA 人間開発部・NIID 感染症危機管理研究センター・NCGM 国際感染症センター
 連携オンラインセミナー:パナマ・ダリエン地域の感染症の流行危惧から考える感染症対応
 について

【セミナー目的】

南米から米国に向けて、多くの人々がパナマのダリエン地域を通過しています。ダリエンに辿り着く移民らは子どもも含めてジャングルの中を何日もかけて移動するため、疲労や不十分な栄養状態、劣悪な衛生環境、感染症を媒介する生物に晒されており、感染症の発症リスクが非常に高い状態です。本セミナーでは、中南米及びダリエン地域の状況から危惧される感染症の種類及び特徴、そして感染症の流行状況を把握する対策について考える機会となりました。

日時：2024 年 1 月 31 日（水） 17:00～18:30

発表者：

1. 氏家無限氏(NCGM 国際感染症センタートラベルクリニック医長)：20 分
2023 年中南米の感染症のトピック：デング熱、チクングニア熱、等
2. 田中健之氏（長崎大学病院 感染制御教育センター病院准教授）：40 分
中南米の社会的背景及び JJICA 感染症支援、各地の感染症診療や研究機関の紹介、ダリエン地域の感染症リスクについて
3. 鹿山鎮男氏（感染研 薬剤耐性研究センター室長）：20 分
薬剤耐性（AMR）対策における三輪車サーベイランスについて

2023 年

2023 年 10 月に JICA（国際協力機構）の要請により、パナマ共和国を訪問し、中米・カリブ地域の感染症対策能力向上を目的とする第三国研修および現地視察を実施しました。本研修は、ゴルガス記念研究所（ICGES）を拠点として、中米各国の検査技師を対象に実地・座学の二部構成で実施されるものであり、長崎大学として「薬剤耐性（AMR）対策」と「One Health（ワンヘルス）」の二つのテーマで講義を担当しています。講義はゴルガス研究所職員、医療従事者、保健省職員など約 60 名が参加し、オンライン配信も含め地域各国への知識共有が図られました。現地協議では、ゴルガス研究所所長らと中南米地域での感染症ゲノムサーベイランス体制の構築や、下水サーベイランス導入などポストコロナ期の感染症対策方針について意見交換を行っています。また、パナマ東部ダリエン県に位置するゴルガス研究所サテライトラボおよび移民受入センターを視察し、熱帯感染症の診断支援体制、マルチプレックス PCR や Global Fever Panel を用いた診断実践、さらには地域医療施設建設計画の現状を確認しました。現地では不法移民流入に伴う感染症リスクや公衆衛生課題が深刻であり、地域住民への支援も含めた持続的介入の必要性が示唆されました。今回の成果を通じ、ゴルガス研究所を中米地域における感染症対策の中核拠点として位置づけ、ワンヘルス・AMR 管理・人材育成を基軸とする国際連携の枠組みを深化させる方向性を確認いたしました。当教室としての本研究所との継続的な交流を発展されることを協議しております。

中南米地域の関係機関にネット配信された講義の youtube:

1) 薬剤耐性(AMR)について

<https://www.youtube.com/watch?v=1MOPqjV202c>

2) ワンヘルスについて

<https://www.youtube.com/live/sj2m61nIk4o?si=wAWnEp9697EBtnzs>





2022 年

2022 年 9 月、メキシコでの調査活動に続き、パナマ共和国にて JICA 支援事業「感染症対策能力強化プロジェクト」のフォローアップ視察を実施しました。訪問先は首都パナマシティのゴルガス記念研究所 (ICGES) および隣接する国立サントトーマス病院であり、感染症診療・検査体制強化および人材育成支援の現状を確認しております。ゴルガス研究所では、感染症サーベイランス・ゲノム解析体制の整備状況を視察し、同研究所所長らとの協議を通じて、中南米地域への技術移転・教育展開の方向性を議論しました。また、長崎大学の感染症臨床・教育体制を紹介する講演を実施し、感染症医療の国際的な課題、COVID-19 対策、ワクチン導入、抗菌薬適正使用などをテーマに活発な質疑が行われました。サントトーマス病院では、HIV/AIDS や結核を中心とした感染症診療病棟を視察し、HIV 外来患者約 5000 名に対する治療支援や、耐性菌監視、感染管理制度などの現状を確認しました。病院とゴルガス研究所間では検体搬送・診断連携システムが構築され、国内レベルでの感染症サーベイランスの中心的役割を果たしております。また、所長からは日本の若手感染症医の研修受け入れや、長崎大学との教育連携 (Diploma・修士課程) に対する意欲が示されました。今回の調査により、パナマを中南米地域の感染症制御拠点として位置づける意義が再確認され、JICA 支援を通じた「診断・教育・国際連携の三位一体的支援モデル」の有効性が明らかとなりました。

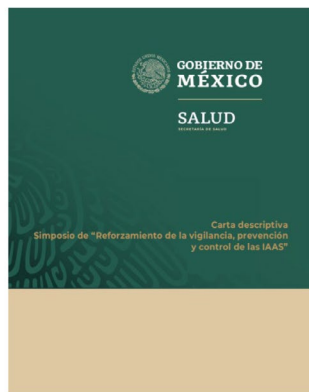
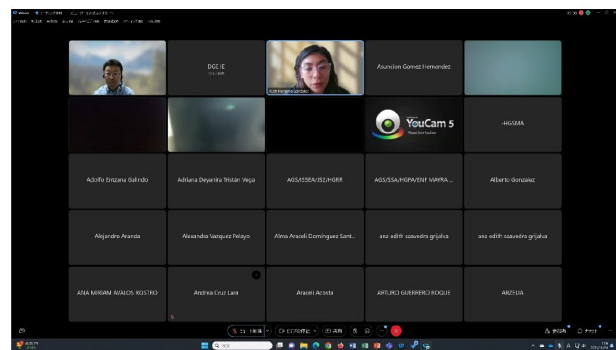


メキシコでのこれまでの活動

2023 年

2023.11.23

メキシコ保健省疫学局主催の医療関連感染コントロールに向けたサーベイランス強化 シンポジウムでの招待講演（田中教授）



2022 年

2022.11.23

メキシコ国立病院機構の全国 AMR シンポジウムへの招請講演（田中教授）



2022 年 9 月、JICA（国際協力機構）の専門家調査団としてメキシコを訪問し、ユカタン自治大学附属野口英世博士地域研究所（CIR-UADY）における感染症対策能力強化プロジェクトの進捗確認および技術助言を行いました。本プロジェクトは、JICA の支援により設立された BSL-3 研究施設を中核とし、中米地域における感染症診断・研究能力の強化を目的とするものです。現地では、JICA メキシコ事務所および保健省疫学局・国立疫学リファレンス研究所（INDRE）との協議を通じ、プロジェクトの体制整備および今後の研究連携方針を確認しました。野口研究所では、熱帯感染症や結核、リケッチア、SARS-CoV-2などを扱う各研究室の責任者と意見交換を行い、研究者向け講義および長崎大学の感染症診療体制紹介を実施しました。また、ユカタン自治大学医学部およびオーラン総合病院を訪問し、COVID-19 後遺症リハビリセンターや感染症病棟の視察を通じて、現地医療現場の課題と支援の方向性を検討しました。特に、JICA 支援により完成間近の BSL-3 ラボ運用体制の確認と安全管理体制に関する助言を行い、ユカタン半島を中米感染症研究のリファレンスセンターとして位置づけるための課題を整理しております。現地関係者からは、長崎大学との学術連携継続への強い要望があり、研究資金確保や運用ガイドライン策定など今後の支援方針の検討が求められました。本活動を通じて、メキシコ国内における感染症研究拠点形成に対する JICA・大学間協力の実効性を再確認し、地域的な感染症制御ネットワーク形成の基盤構築に寄与しております。

この事業をきっかけに長崎大学 TMGH と JICA メキシコ、メキシコ保健省の交流ルートが強化され、毎年 JICA メキシコの奨学金で長崎大学へ PhD や修士学生、および DTM&H の研修へのメキシコ人医師が複数派遣されるようになり、そのメンバーを軸に長崎大学（とくに当教室）との連携が強化されております。

メキシコ・タマウリパ州のネット新聞への田中教授の講演掲載：

<https://www.hoytamaulipas.net/notas/508437/Especialistas-japoneses-en-enfermedades-infecciosas-intercambian-conocimientos-con-homologos-yucatecos.html>







ボリビアでのこれからの活動

熱帯医学・グローバルヘルス研究科の平山謙二教授が長年取り組まれてきたボリビアでのシャーガス病研究の長崎大学チームに 2025 年から当教室も参画します。今後、臨床研究的な側面でのアプローチでの展開が計画されます。

<https://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/news/news4674.html>

<https://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/news/news3939.html>

長崎大学のブラジル研究拠点の紹介

<https://www.ccpid.nagasaki-u.ac.jp/20240703-2-2/>

<https://jgrid-plus.jihs.go.jp/world/brazil/>